都建設局の23年度優良工事等 23社・2JVなど表彰

東京都建設局は6日にVと委託5件の受託者5社に対し、賞状や多摩産材で作られた木製の盾を贈った。

中島高志局長は受賞案件について、「昨年度に完了した工事と委託が約1200件あった中から、技術力の発揮や創意工夫の取り組みで特に優良な成績を収めた案件を選定した」と評した。その上で、「都民生活や首都東京の社会経済生活を支えるインフラの整備・管理に高いレベルで貢献いただいた」として謝意を伝えた。

また、建設業の担い手不足の問題に触れ、「建設業を魅力ある産業にし、中長期にわたって担い手を確保していくことが重要」との認識を示した。建設局の取り組みとして、「週休2日制確保工事の推進や適切な工期設定などにより、建設業の働き方改革を後押しするとともに、BIM／CIMやICT建機を活用した工事に積極的に取り組むなど、建設現場の生産性向上に努める」と述べた（受賞者は8月28日付1面既報）。

積水化成品工業　災害時 道路啓開で効果　EPSスロープ

積水化成品工業（大阪市北区）は、首都高速道路会社（千代田区）と共同で開発した軽量段差修正材「EPSスロープ」と「EPSフラットブロック」を、首都高速道路のネットワーク上に配備している。首都直下地震などの災害発生時に迅速な道路啓開を行うため、首都高速道路会社の地震防災訓練（道路啓開訓練）で効果を確認した＝写真。

訓練では、道路の継ぎ目で発生した段差を想定して障害物を設置。災害発生時の状況を模擬し、EPSスロープを運び障害物に設置、緊急車両の段差乗り越えを実施した。EPSフラットブロックと併用することで最大60㎜の段差に対応できるという。

積水化成品工業は今後、全国の高速道路会社へ両製品の販売を強化する方針だ。

THIRDの管理ロイド　不動産管理業務　ペーパーレス・自動化

THIRD（新宿区）は、不動産管理会社を中心に「管理ロイド」の導入を加速している。ペーパーレスと業務の自動化を進める新たなプラットフォームが注目されているという。

管理ロイドは、紙が中心の点検・検針・清掃報告書作成業務をスマホアプリとウェブダッシュボードに置き換え、建物管理業務を効率化。遠隔監視も可能になる。大手ビル・マンション管理会社を含め、2200社以上が利用しているという。

同社は8月30日からインテックス大阪で開かれた「Japan Build OSAKA」に出展＝写真。ブースには3日間で約500人が訪れた。管理ロイドに加えて、工事見積もりの適正価格が分かる「工事ロイド」も紹介した。

同社の井上惇社長は「管理ロイドで管理工数を削減し、労働生産性が改善する。工事ロイドは工事の原価を下げ建物管理者の利益率を高める。建物管理のデジタル化に伴い高度な建物管理を実現しながら利益率を高める基盤となる」と話した。

豪州のシャッターメーカー　文化シャッターが子会社化

文化シャッター（文京区）の100％子会社であるBX BUNKA AUSTRALIA PTY LTDが、オーストラリアのシャッターメーカーSPRINT ROLLER SHUTTERS PTY LTDの全株式を取得した。

SPRINT社の買収により、オーストラリアの主要地域の一つであるビクトリア州で産業・商業向けシャッターの製造拠点を獲得。製造基盤の強化と事業領域の拡大を進めると同時に、海外事業の拡充を図る方針。

総会

●ソフトコアリング協会　役員改選で田中会長を再選

ソフトコアリング協会は、都内で2023年度定時社員総会を開いた。当日は任期満了に伴う役員改選で田中昭洋会長を再選出した。

田中会長＝写真＝は、「われわれは社会インフラの長寿命化に大きく貢献できる技術を持っている。しっかりとした技術で品質の高いものを提供していかなければならない」と強調。その上で、「皆さんの協力がなければ達成できない。さらなる協会運営へのご協力をお願いしたい」とあいさつした。

総会で同社は、22年度の活動報告・収支決算報告と23年度の活動計画・収支予算などを承認。総会後には、各委員会からソフトコアリング技術活動の現状などが報告された他、技術講習会が行われた。

安全大会

●葛飾造園災害対策協議会　災害への安全意識向上を誓う

葛飾造園災害対策協議会（菊地謙二会長）は4日、都内で第13回災害防止安全大会を開き、労働災害や自然災害に関する安全意識の向上を誓った。

菊地会長＝写真＝は、「造園業務は、公園や児童遊園、街路など区民の方と接する機会が多く、作業範囲において安心・安全を率先して築いていく必要がある。木に登っていても、茂みの中で作業をしていても、周りの人の安全を常に気に掛けるようお願いしたい」と会員に呼び掛けた。

来賓の青木克徳葛飾区長は、「公園での事故は、遊具や公園の作り方を考えることで減らすことができるはず。そのためには、区内の造園業者の皆さんから現場に関する意見を聞くことが大事だ。公園を設計する際にその声を反映し、事故を減らす取り組みを進めていきたい」と述べた。

大会では、区の都市整備部の道路補修課長らを招き、災害に強いまちづくりについて講演した。

Interview

零壱SIM　通信機器販売を展開

一零壱製作　代表取締役社長　和氣（わき）博行（ひろゆき）氏

「SIMフリー」などの用語で使われるSIMは、スマートフォンなどのモバイル端末の他、IoTといったネットワーク分野でも幅広く活用されている。零壱製作（栃木県那須塩原市）は、建設業・建設機械業向けにデータ通信機器販売のサービスを始めた。核となるのが、データ通信特化型格安SIM「零壱SIM」だ。建設現場の運行管理システムにおける位置情報取得やシステム開発プロジェクトのコミュニケーションツールとして、ビジネスで利用が広まっている。和氣博行代表取締役社長にサービス提供の狙いを聞いた。

―零壱SIMの特長は。

「零壱SIMは、データ通信に特化した法人向けの格安SIM。通信容量1ギガバイトを月額462円（税込み）から段階制プランで利用できるため、スモールスタートでの運用が可能。業界最安値級かつ1ギガバイト単位での設定が可能なのは、仮想移動体通信事業者『MVNO（Mobile Virtual Network Operator）』の中で、当社だけだ。通信量の増加に備えた大容量プランや1000枚以上のSIMを一元管理できるデータ通信管理システムも提供している」

「SIMカードとスマートフォンを一緒にレンタルしている。手元にスマートフォンが到着したらすぐ利用できるように、キッティングと開通処理を行った上での納品も可能だ」

―ユースケースを教えてください。

「建築、土木などの建設工事の現場では、作業員や車両の位置情報、経路履歴、積載情報をリアルタイムで収集し、メッセージやアラートをスピーディーに表示する必要がある。このため、端末の通信コストがかかりやすく、通信速度が低いと十分なパフォーマンスが発揮できない。ある建設会社の現場では、通信コストや速度の課題をクリアし、大量の通信端末の稼働状況をリアルタイムで把握できるようになった。零壱SIMが運行管理を支える通信ツールとして活躍している」

―今後の展開は。

「2021年には、独立系ソフトウエア開発と環境構築の提供をワンストップで提供している事も当社の強みだ」

「ニーズウェルが持つソリューションに当社が持つMVNOの技術を組み合わせてさらなる高付加価値化・業務効率化を実現し、企業のDXを推進する新たなサービスを展開できる。これまでの取引基盤を強みに、シナジー効果を発揮していきたい」（ビジネス開発事業部＝大西正太）

運行管理アプリでの活用イメージ